

困った／良いメタ査読者・査読者

齋藤孝道(明治大学)

査読プロセスの概要

査読プロセスの前半

- ① 著者投稿 → 事務局: 担当編集委員割当
- ② 担当編集委員: **2名の査読者選定** (期間: 1週間)
- ③ 査読 (期間: 4週間)
- ④ 担当編集委員: 判定案 (**採録・不採録・条件付き採録**) (期間: 2週間)

採録・不採録(編集委員案)の場合

- ① (月一開催)編集委員会グループ会議: 判定 → 差し戻しもある

条件付き採録(編集委員)の場合

- ① 事務局 → 著者修正論文再投稿 → 事務局 (期間: 8週間)
- ② 査読 (期間: 4週間)
- ③ 編集委員: 判定 (**採録・不採録・2回目照会**) (期間: 2週間)
- ④ (月一開催)編集委員会グループ会議: 判定 → 差し戻しもある

2回目照会の場合

(条件付き採録の場合とほぼ同じ)採録・不採録のいずれか

編集委員(メタ)・査読委員の主な役割

編集委員(メタ)の主な役割

- 投稿論文の**査読プロセス管理**(査読者の選定, 査読の督促)
- 再投稿論文ならびに二重投稿論文に関する特例処置
- 論文の採否の判断
- **査読者・査読報告の調整**

査読委員※の主な役割

- 同分野の専門家による評価や検証(新規性・有用性など)
- 論文査読の手引きによれば・・・下記(1)(2)のバランスをとるために査読
 - (1) **会員に有用な情報を提供**する
 - (2) 会員に研究発表の場を提供する
- **新方針:『石を拾うことはあっても玉を捨てることなかれ』・『ベカラズ集』**
論文の価値は最終的に社会が決めるので, その分野における学術上の議論を活性化する可能性があるものであれば積極的に採録とする.

※査読委員は, 原則として, 本会論文誌または他の権威ある学術誌に2編以上の学術論文を発表したことのある本会会員, または2名以上の編集委員の推薦のある本会会員の中から選定する。(論文誌ジャーナル編集細則・第6条)

ありがたい＜編集委員(メタ)＞

- A. 編集委員会に参加して, どうすれば採録になるかを考えてくれる
 - ① 様々なルールがある...
 - ② 文章だけの報告では, 委員ですら理解不能なケースもあり

- B. 新方針をコミュニティの活性化(エコシステム)だと捉えてくれる
 - ① 新しい芽を伸ばして, コミュニティを継続的に成長させる
 - ② 組織(情報処理学会)の方針よりご自身の正義を貫きたいのであれば...プロセスを踏んで方針を変えてください!

- C. 「査読委員」のダメだし(新規性・有効性)を客観的に修正
 - ① 第三の査読者ではなく, 新方針からスタンスで調整
 - ② 「2名の査読委員がダメって言っているからダメ」は止めて!

ありがたい<査読委員>

A. 良い点を評価して、どこが足りないかを具体的に指摘してくれる

- ① 例:クレームが曖昧な論文 ←どこをどうすればいいのかをアドバイス
- ② 総合的にみて、判断を下してくれる

B. 落とす理由がクリア・客観的・具体的

- ① 既存・先行研究を明確に記載
- ② 論文の問題点を具体的に指摘してくれている
- ③ 「自分が知らないだけ」なのに、ばっさりと不採録はしないで！
- ④ 「評価方法(実験)」に対して、厳しすぎない適度な不足の指摘

C. 採録の際、評価すべきポイントを明記してくれている

- ① 内容の良さが他の委員にも理解できる

D. 総合的な評価をしてくれる

- ① 製品レベルの完成度は必須ですか？
- ② 後に、評価されることになった研究ってありませんか？

ありがたい＜共通＞

A. 条件付き採録の際：条件を客観的・具体的に記載してくれる

- ① なにをどこまで追記すれば，採録なのかが第三者からみて曖昧でない
- ② 査読される側も納得がいく条件・判定を下してくれる

B. 新規性・有用性・総合評価で，1～5をきちんとつけてくれる

- ① 論文賞の推薦のチェックボックスもありますよ～
- ② 推薦のチェックボックスにチェック入れても賞を取った訳ではないですよ～

C. 著者らをエンカレッジしようしてくれる

- ① コミュニティの活性化(エコシステム)だと捉えて頂ければ・・・
- ② またのご来店を・・・の精神！？

